やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	30 / 2011 / 11-16
タイトル	アオモリトドマツの雪害　2011･北八甲田
著　者　名	棟方啓爾

アオモリトドマツの雪害　2011・北八甲田

第６代　棟 方 啓 爾

1. はじめに

アオモリトドマツは、仕事と趣味で八甲田・蔵王・八幡平等で半世紀以上接してきた。昭和年代は高海抜樹種更改等の調査で、近年はスノーシューガイドでその群落を歩く事が多い。こうした体験で得たアオモリトドマツの印象は、「寒さと雪にめっぽう強い樹」である。事実同海抜のダケカンバやブナの被害はよく見かけるがアオモリトドマツはあまり見掛けない。

ところが、今年(2011)5月の残雪期に北八甲田で多数の雪害木を見掛けたのである。しかも被害木は健全木でかつ樹齢200年を超す大径木が多かったのだ。

直感的に近年の地球温暖化の伴う異常気象を想起したが、目下メディアや研究機関でも話題となっていないようなので後学のためその状況を以下に記録する。

2. アオモリトドマツについて

被害状況をよく理解する上で、特にその成長の低さを認識する事が大事なので、以下八甲田山系における状況を簡単に述べる。

1)分　布

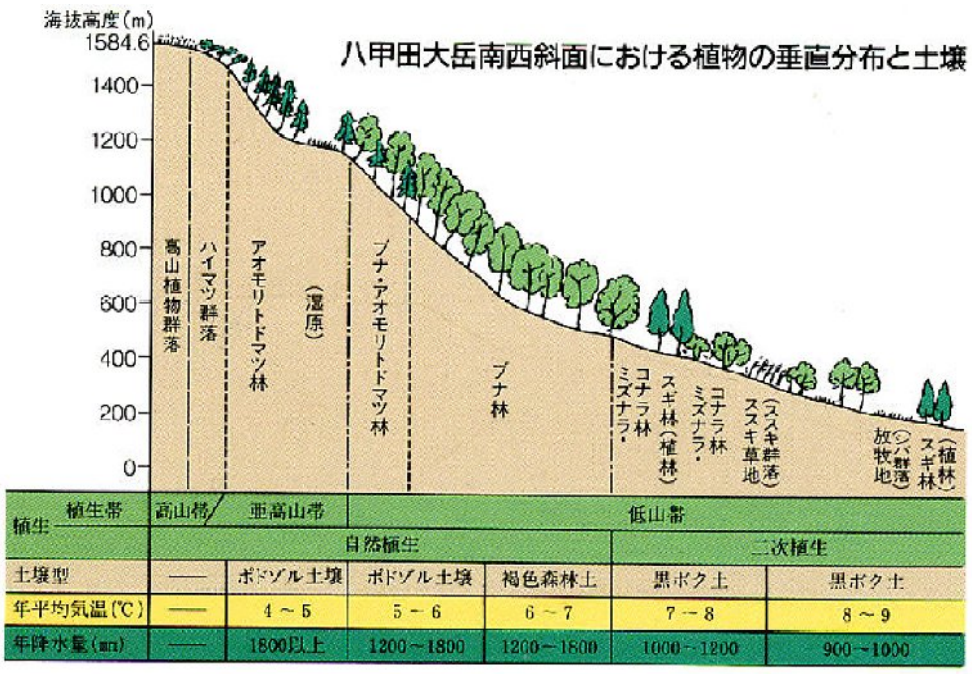
(1)水　平　　北限ー火箱沢県道北側。

　　南限ー南八甲田

(2)標　高　　北限地　　700m

　　最高地点　八甲田大岳山頂直下　　1500m

　　ブナとの混交地帯　　900～1100m



(持田、1996)

2)成　長

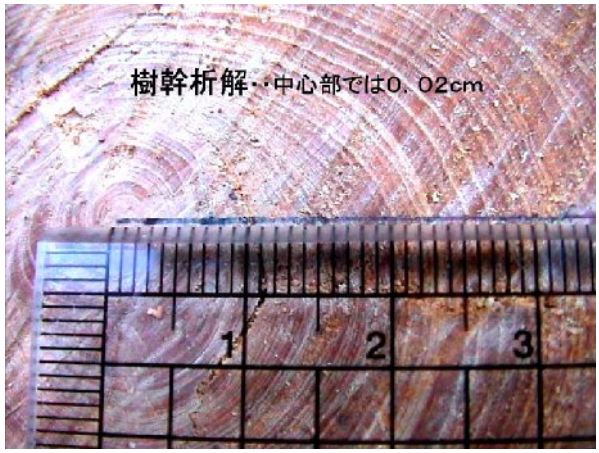
(1)樹　高　　林床が暗い稚樹時代の成長は極めて遅く1mに50年以上経過するのも珍しくはない。

(2)直　径　　具体的な調査結果はつぎの通りで…

高田大岳地区　0.071、　黒石地区　0.096、　同左　0.101、

酸ヶ湯･大岳地区　0.049、　同左　0.051、　同左　0.069cm

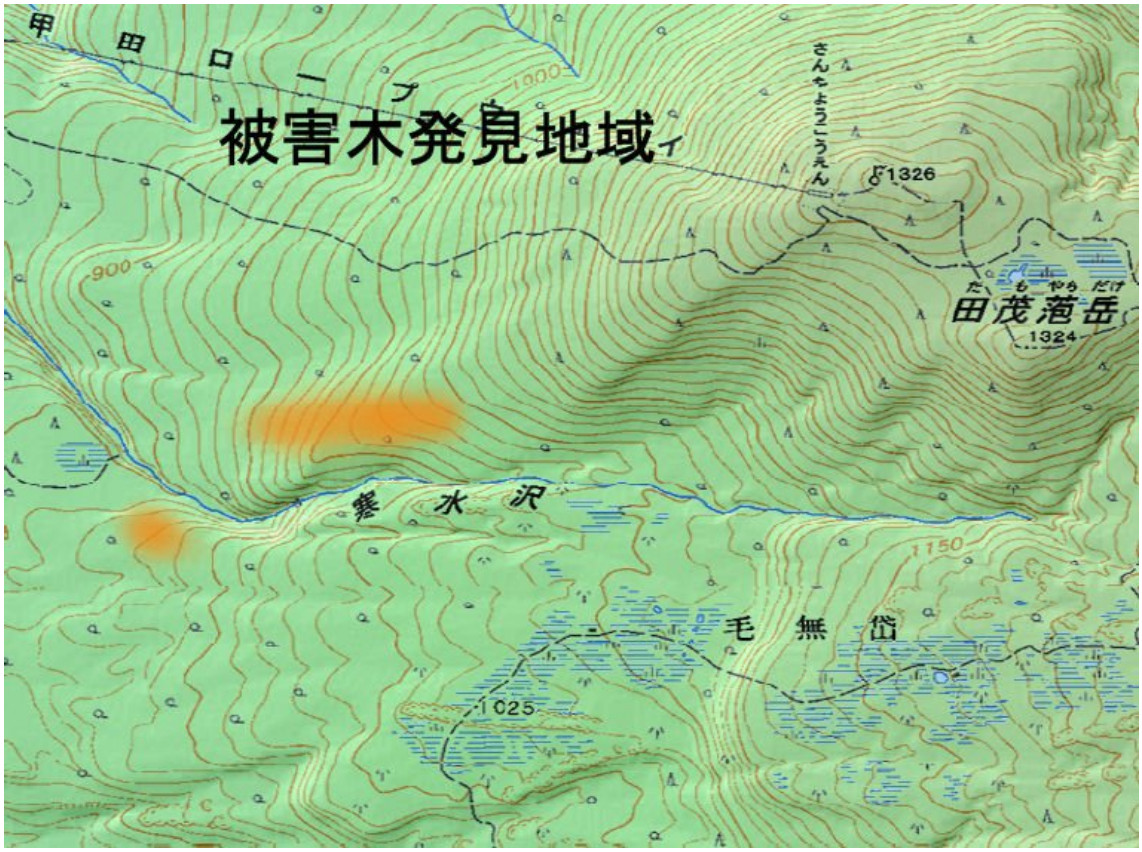
平均年輪幅は0.075cmと極めて狭く、直径30cmの推定樹齢は200年である。



3. 被害状況

1)時　期　(発見日)2月4日～7月21日

2)場　所　主として北八甲田･田茂萢　海抜900m～1200m



3)被害型　全個体共幹折れ

4)個　体　中・大径木、1個体(半枯損)を除き総て健全木

以下に被害写真を掲載

4.考　察

1)気象害

アオモリトドマツ以外で観察された気象害は次の通りであった。

(1)雪　害　　国見峠　ブナ雪害

(2)霜　害　　横沼でブナ新緑に季節外れの霧氷

（3）その他

ブナ新緑遅れ。例年5月末生育限界に達するが今年は6月にずれ込む。

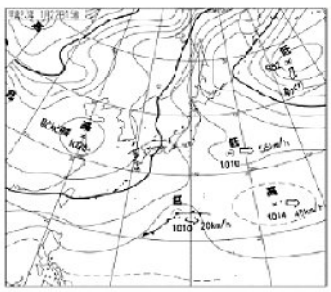
田代高原やグダリ沼周辺のレンゲツツジが霜害で開花しなかった。

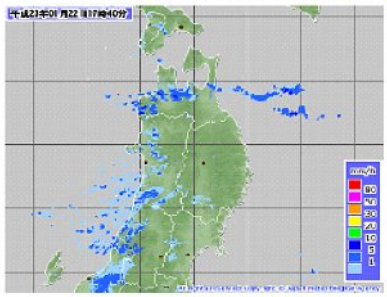
田代湿原のキンコウカが蕾に霜害を受けた。

2）1.2月の気象

以下に関係する積雪・着雪風景と気象資料を転載する。

（3）1月22日　雪雲の集中で東青津軽の大雪　**この冬のまとめ（2月まで）**

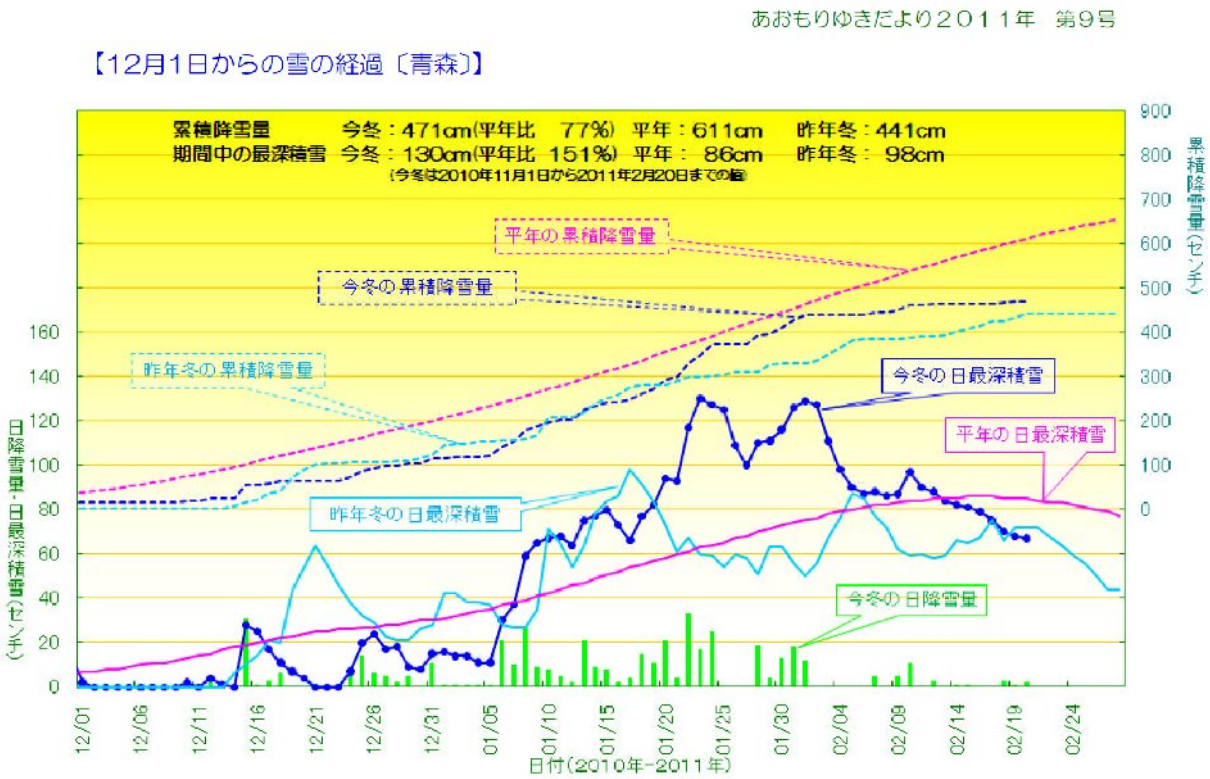




1月22日15時の地上天気図　1月22日17時40分のレーダー画像

1月22日は、東北地方の上空約5000メートルに氷点下42度の強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まりました。発達した雪雲が東西に並び、同じ場所で降り続いたため降雪量が多くなり、大雪となりました。このため、気象台では22日夕方に青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村に大雪警報を発表しました。

青森では22日の日降雪量が33センチに達する大雪となりました。22日9時には、89センチだった青森の積雪は、21時には116センチと5年ぶりに100センチを超えました。



3）被害原因

気　温（低温・樹氷）	凍害　幹割れはなく凍害はない。	
	寒害　材部への影響はない	
	樹氷が形成される海抜でない	
風　速（偏西風・ヤマセ）	風害.ダウンバストではない。根元近くに倒れている。	
	風力に関係なく複合因子として可能性あり。	
積　雪（湿雪.豪雪）	1月中旬以降大雪あり。	
考　察	実際に観測していないのであくまでも推測の域を出ないが…	
	着雪負荷と風力の複合因子が雪害発生原因と推察される。	

5. おわりに

その後も南北八甲田を訪れる機会があり、その都度アオモリトドマツの被害状況を注視しているが、上記田茂萢岳に類する纏まった被害は未だ見掛けていない。

特に八甲田ロープウエー・ゴンドラは、広範に高所から観察できるので注視しているがその他と同様単木的な被害はあっても纏まった被害は見掛けていない。

今回の田茂萢地区で纏まって多かった被害は、局所的で特異な異常気象によるものと推定されるが、本来雪に最も強く高海抜に生育するアオモリトドマツの健全木が、幹から折損する現象は、誠に特異と言わざるをいない。今後関係機関の調査に期待したい。